



No.47 2020.4.27

明石市コミュニティ・スクールだより  
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

## コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

### オンライン会議体験会に参加してみました

ウィズあかし 緊急企画 LET'S TRY

スタッフと一緒にやってみませんか  
わかりにくい場合は電話でフォローします

**まずはオンライン会議を体験してみよう!**

**4/29 (水祝) ZOOM体験DAY**

- 13:30~まずはオンライン会議に参加してみよう
- ※会場に参加してみよう
- 13:40~体験会を開催してみよう
- ※ゲストになって体験会を開催する
- ※ZOOMの使い方、事前紹介、情報交換会

こんなことができるようになりますよ

- ・オンライン会議に参加
- ・情報の共有・理解のつながり

準備するもの

- ・パソコン (カメラ付き) カスマートフォン
- ・Wi-Fi環境

運営：一般財団法人明石コミュニティ創造協会 TEL 078-918-5600



明石コミュニティ創造協会が企画された、「LET'S TRY まずはオンライン会議を体験してみよう!」に参加させていただきました。ZOOM を使ったのコミュニティ・スクール研修会を企画したり、ZOOM での打ち合わせを経験していますが、正直 ZOOM 初心者なので、いい機会でした。ZOOM の使い方はもちろんですが、WEB 会議システムを使ってどのように会を進行していけばいいのかということにも興味があり、どう体験会を進行するのかと興味津々でした。今回は、まず ZOOM の基本的な操作方法が中心でしたが、全体でミーティングしながら、小グループに分かれての話し合いができたり、画面が共有できたりと驚きばかりでした。や

っぱりまず体験ですね。毎週水曜日にこれから開催されるというのも Web だからできるのだろうなと思います。研修のあり方も変わっていくように思います。次回は祝日ですが4月29日(水)です。

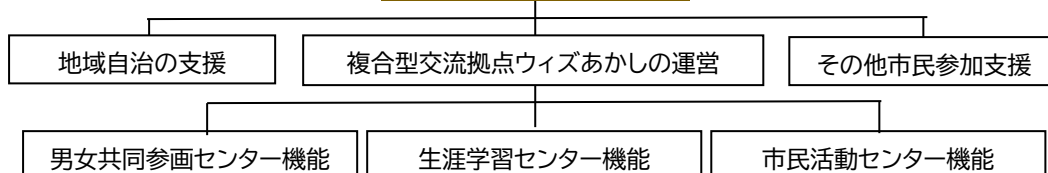
- ①13:30~(オンライン会議に参加してみよう) ②14:30~(オンライン会議を主催してみよう)  
③15:30~(Zoom の使い方情報交換会) ※どの時間からでも、途中参加、途中退出 OK です。  
様々な打ち合わせがストップしている今、Web 会議に挑戦してみませんか。

### 明石コミュニティ創造協会って?

ところで、みなさんは明石コミュニティ創造協会をご存じでしょうか?コミュニティセンターにはよく来ておられ、地域の方はよくご存じです。まちづくり協議会さんのすすめておられるまちづくりの支援をされておられ、地域の方とはよくつながっておられます。コミュニティ・スクールを導入する中で、コミュニティ創造協会さんの活動を知り、つながっていく中で、明石ではすでに学校の外の社会ではコミュニティ・スクールづくりがすすめられていたんだと感じました。明石コミュニティ創造協会(以下、コミ創)のミッションをみると、まさしく「いい学校づくり=いいまちづくり」だと思われませんか。

明石コミュニティ創造協会のミッション  
市民参画をプロデュースする  
私たち、明石コミュニティ創造協会は、  
誰もが、個性を活かしながら、“自分らしく”その役割を發揮し、  
社会の一員として参画し、活躍することをプロデュースしています。

#### 市民参画のプロデュース



明石市は市内にある 28 の小学校区を単位として、自治基本条例に基づいた住民による地域自治をすすめています。まちづくり協議会は、校区の特徴に合わせたまちづくりのための「まちづくり計画書」の策定をすすめており、コミ創さんはその支援を行っておられます。

その中で校区直接支援として、地域の実情に合わせて、会議やワークショップの進行、組織体制の検討、他地域の事例提供など様々な視点で地域の支援を行っておられます。また、全体支援として、28 校区全てに対してセミナーや講座、懇談会を開くなど、明石の住民自治に関する活動をしておられます。今回の緊急企画「LET'S TRY まずはオンライン会議を体験してみよう！」はこの全体支援にあたるものです。

改めてコミ創さんの活動をみると、まちづくり計画書そのものが私には「各校区のコミュニティ・スクールづくり計画書」のように見えてきます。校区の特徴にあわせ、幅広く意見をきき、議論を重ねながら、いい学校づくりをすすめていくことが、いいまちづくりをすすめていくことにつながっていく、その中で地域を支え未来を創っていく子どもを育てる仕組が「社会に開かれた教育課程」なのではないかと思います。

こうしたまちづくりをすすめる中で重要になるのが熟議です。コミ創さんのメンバーさんは、これまでもいろいろなところでファシリテーターとして会を進行されてきた経験をもっておられます。今後、教師に求められる力としてファシリテート力だと思います。そういった意味で、教育委員会関係が開く研修だけでなく、今回のような緊急企画「LET'S TRY まずはオンライン会議を体験してみよう！」に参加することも大切ではないと思います。臨機応変にニーズに応じた研修をフットワークよく企画し実施できる、そうした臨機応変にニーズに応じた対応ができる学校になりたいですね。



(コミ創ホームページより)

### 問題提起です

オンライン授業をスタートさせた地域もあります。きっかけは新型コロナウイルスでしたが、これまで経験したことのない世界に、準備もなく飛び込んでいったという感じです。社会は急速に動き始めています。その中で社会を支え未来を創る子どもたちを育てる教育の本質を見つめ直し、その本質に沿った教育を実現するためにオンライン授業のあり方等も含め、学校デザインの話し合いをスタートさせるには絶好のチャンスではないと思います。まさしくピンチをチャンスにですね。

2020年4月21日の苦野一徳先生がツイッターで次のようなツイートをされています。

オンライン授業になったのに、いや、なったからこそ、先生が余計に子どもをコントロールしようとはしていないだろうか。あれしなさい、これしなさい、家でも制服で授業を受けなさい(??)…今こそ、学びのコントローラーを少し手放し、生徒の選択肢を増やし、そして徹底サポートする教育を目指したい。

みなさんはどうとらえられますか？議論を始めておいてもいいのでは？

余談ですが、コミ創さんの今回の緊急企画「LET'S TRY まずはオンライン会議を体験してみよう！」は前日に話題に上り、企画し、翌日実施というまさしく緊急企画だったようです。

今、必要なことをフットワークよくやっていくことが求められているのだと思います。

“石橋をたたいて渡る”ことも大切ですが、“石橋をたたかず渡る”ことが必要なときもあるのでは。

(文責:北本)